

## 2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 田園調布学園中等部・高等部 ] 担当教諭名 [ 長峰 歩 ] ( 美術部・高2有志 12名 )

相手国・地域 [ アメリカ ]

海外学校名 [ SKA Academy of Art and Design ] 担当教諭名 [ Leng Chang / San The / Priscilla Lin ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	部活動	アートマイルプロジェクト	15

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	ポストコロナの時代を、助け合いながらともに乗り越えてゆく
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>中心の地球に平和を象徴するピースマークを、周りには両国の国の花を描くことで両国間の友好的な関係性を表現した。両側に共通しているのは、それぞれの国の空と、街、そしてそれぞれの国、地域の活動などである。日本側にはブルーインパルスで医療従事者を励ましたことや、オンライン授業を実施したこと、学校でメッセージカードを集めて医療従事者に送ったことなどを描いた。背景の色には、感染状況のレベルを表す色を塗った。アメリカ側には、手作りのマスクを作ったことや、面会が制限されてしまった老人介護施設で暮らす人々を若者が励ます様子、ワクチン開発の様子なども描かれている。</p>



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症について、日本だけでなく海外からの見方を知ることが出来た。</li> <li>・相手校があるジョージア州についても興味関心を抱くことが出来た。</li> <li>・自己紹介や調べ学習ややり取りを通して、相手校を身近に感じる事が出来た。</li> <li>・大きな作品を共同制作することで、日本の生徒間でもお互いを尊重する心を育むことが出来、また海外の友人たちと共同制作をしたという経験を経て、自信を得ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作をする段階になり、生徒間で温度差が出てきてしまった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で放課後の活動が制限される中で、なかなか時間を割くことが出来なかった。また、今年度は高2が中心となって引っ張ったが、中学生だけではなかなか進めることが難しかった。</li> </ul>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校のあるジョージア州では、今年、様々な出来事に直面していた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大や医療のひっ迫、大統領選挙や黒人差別の問題など。ニュースにジョージア州の地名が出てくることが数回あり、本校の生徒たちも、相手校の地域で起きている出来事を自分事とし捉えるようになっていた。</li> <li>・世界中で感染拡大が進む中、不安な気持ちを抱えた生徒も複数いると思われるが、相手校の生徒たちと気持ちや情報を共有したことで緩和されたように感じた。</li> <li>・SKAの生徒たちは美術が得意であり、描写力にも長けていた。本校の生徒たちは憧れの念を抱くとともに、今後のやる気にも繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校がとても慣れており、全てにおいてリードしていただいた。自己紹介スライドや調べ学習、下書きなどもスムーズに進めることが出来た。進め方なども、とても勉強になった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で多くの教育活動に制限があったが、今回のプロジェクトに参加するにあたり、本校は一人一台PCを持っているためとても進めやすかった。休校期間中や分散登校中は部員同士Zoomでミーティングを行うなどした。今後、時差がない学校と一緒に描く機会があれば相手校ともZoomでミーティングをしたり動画を送ったりしてお互いの様子がさらにわかるようにしたいと思う。</li> <li>・他教科の教員に関わってもらおうと更に学習内容に深みが出ると感じた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	自己紹介 Googleスライドで自己紹介を作成する。日本語で作成し、英訳する。	自分が好きなものを、相手校の友人たちにもわかるように、また楽しんで読んでもらえるように工夫してまとめた。相手校のスライドを送っていただいた際には共感しながらも、刺激を受けていた。	部活動
共有 テーマ学習	7月 ～ 10月	調べ学習 お互いの国、地域でコロナウイルス感染症の感染者数や感染対策、学校で行った活動などをGoogleスライドにまとめる。日本語で作成した後、英訳する。	国内の事も調べた事で改めてどんなことが起きているのかを知ることが出来た。	部活動
融合 メッセージ作成	11月	調べ学習発表 スライドを送り合い、熟読する。お互いに疑問に思ったことなどを質問し合い、理解を深めた。 メッセージ決定 相手校と相談し合い、作品を通して伝えたいメッセージを決定した。	日本では行っていないような活動が多かったので視野が広まったようだった。日本でもこんな活動が出来るのではないかと、本校でもこの取り組みが出来るのではないかと話し合う場面もあった。	部活動

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
創造 壁画制作	12月	下書き開始 決定したメッセージを伝えるため、壁画の構図を考える。全体的な構成を相手校と話し合っ決めてあと、それぞれの担当分の構図を決める。決定したら下書きを相手校にも送り、意見をもらった。 本書き、壁画発送 指定の絵具を用いて着彩。色合いが豊かになるように工夫した。	皆で話し合いながら下書きを決める際、どんなデザインにすれば見ている人にメッセージが伝わるか、各自が良く考えて意見していた。 本書きする際、壁画ではコロナウィルス感染症をテーマとしているが、暗くならないように明るい色彩で描くことで、明るい未来がきっと来ることを表現した。	部活動
評価 振り返り 自己評価	1月	下書き、本書き、壁画発送 完成 本校に壁画が到着、学校内で展示を行った。	相手校の地域がロックダウンになる直前に送ってくださったことや、海の向こうの友人たちと協働できたことに感動していた。	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	相手校の地域で起きていることに興味関心を持つことが出来た。また、相手校の意見に耳を傾け、尊重しながら自分たちの意見を伝えることが出来た。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	お互いの下書きのデザインについて相手校とやり取りする中で、お互いに客観視することが出来た。
主体的に考え行動する力	3	相手校にリードしていただくことが多かった。また、一部の生徒は皆を引っ張ってくれたが、一部の生徒は指示を待ってしまっていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	下書きのデザインを相談する際に、相手校と頻繁にやり取りをした。お互いの意見を交換する中で、本校の生徒だけでは思いつかないようなアイデアも飛び交い、とても良い交流が出来た。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	下書きのデザインをまとめる際、何をどんな色でどのような構図で描くと他者にメッセージを伝えることが出来るか、よく考察して描くことが出来た。